

日本共産党京都市議会議員

# 山本 陽子 活動ニュース

VOL.35 2018年7月29日号

連絡先 日本共産党山科区生活相談所 山科区西野大手先町8-8 ☎595-8342

熱中症に  
注意を！

山科区生活相談所  
山科区西野大手先町8-8  
☎595-8342



## 7月の豪雨災害等

～被災者の皆様にお見舞い申し上げます～

×ディアなどでは数日前から台風や梅雨前線の進路、予想される被害の状況が大きく取り上げられ、豪雨に対する注意喚起、災害への備えが叫ばれていた今回の豪雨でした。私はちょうど、7月4～6日にかけて岐阜や埼玉、東京などへの他都市調査の出張予定でしたが、京都の状況を見ながらの出張となり、5日深夜に多くの学区で避難指示が発令されたことに伴い、6日の早朝6時には予定していた出張を取りやめて、埼玉から京都に戻って来ました。

山科では2013年の台風18号による被害が大きかったので、河川の氾濫に警戒が必要だと、ただちに見て回りました。気になる四宮川、安祥寺川は毘沙門の上流まで見に行きましたが、流量は普段より多いものの、流木などで流れがせき止められる等の様子はありませんでした。安朱学区では自主防災の取り組みで学区民が雨量を計測されています。自主防災の役員

の方にお会いすると、「状況を確認しながら、雨量の計測を通じて大雨災害の予測ができるようにしていきたい」と話をしてくださいました。



7/19 日本共産党市会議員団、災害救援基金の宣伝。三条河原町。

山科では、今回、5つの学区で避難所が開設されました。各避難所へ、6日、7日の両日訪問させていただきましたが、7日時点では避難されている方はおられませんでした。自主防災の役員の方、小学校の校長・教頭先生、区役所の職員の方が猛暑のなか、避難所に待機されていました。今回は緊急アラームの作動により、大学生など一人暮らしの若い方が避難所に行かれたことが特徴的だったようですが、高齢者や障害を有する方など、要配慮者に対して注意喚起の声かけられていたか、避難所の受け入れ態勢の課題は…？ あらためて防災対策が問われています。委員会でも引き続き、取り上げています。

### ◆ブロック塀の倒壊事故防止◆

6月18日の大阪府北部を震源とする地震は、京都でも被害が見られます。ブロック塀の倒壊で子どもたちが命を落とすような痛ましい事故が二度と起こらないように、京都市においても、この夏休みに専門家による全校および通学路のブロック塀調査がおこなわれます。また、民間のブロック塀除去工事に対しては15万円まで補助制度が設けられています。

### ◆地震による被災者支援制度◆

被災者住宅再建支援制度が6月18日の地震災害、7月豪雨災害にも適用されることになりました。雨もりやその可能性が高いと判断されれば、50万円まで支援金が支給されます。また、木造住宅耐震化改修補助制度により屋根を軽量化する際の補助の適用もあります。その他、罹災証明があれば国民健康保険料や介護保険料、保育料、敬老乗車証の負担金の減免等支援制度があります。※詳しくは区役所(山科592-3050)にお問い合わせください。

## 「認知症の人と家族の会」との懇談

京都では1980年に「呆け老人をかかえる家族の会」が結成されました。今は「認知症の人と家族の会」と名称をかえて、本部を京都に置き、全国に広がる活動をされています。65歳以上の高齢者の7人に1人が認知症を発症すると言われていた昨今ですが、高齢者人口がピークを迎える2025年にはその比率は5人に1人になると言われています。特別な病気ではなく身近な病気と考えて対策をするべきだと、会としてさまざまな提言がされてきました。

認知症は早期発見、早期治療で進行を遅らせることができますが、今の介護保険制度の下では「充実どころか、後退の一途」。要支援1、2の人の訪問介護と通所介護が介護保険の給付から外されたり、生活援助の利用を要介護3以上に限定する方向が審議されるなど、必要なサービスが受けられなくなる怖れがあり容認できない、と声をあげておられました。

地域での見守り支援も必要で、京都市としては昨年度から各行政区で医療・介護の

専門職が連携した「認知症初期集中支援チーム」が立ち上げられています。山科でも実効性のある支援が実現するよう、求めています。



「認知症の人と家族の会」との懇談

ヨウコのママチャリ子育て日記

自然の怖さ

地震、豪雨と続いた自然の脅威。子どもたちにとっては、学校が臨時休校になつて「ラッキー！」…ということもあつたと思いますが、実は心理的に大きな不安を与えているということもわかりました。

六月一八日の地震は、朝の登校時。ちょうど集合場所に出ている時に起こりましたが、集合に遅れたお友達の家で大きな地震を体験して、恐怖で泣き出し、お母さんといったん家に帰ることにしました。

その後、六月三〇日の土曜日には集中豪雨と大きな雷がありました。うちの弟君は怖がりなので、学童保育で泣き出してしまったそうです。不安が伝染したのか、それを見たお友達も泣き出してしまいました。「お姉ちゃんが弟君にずっと寄り添っていたそうよ」とお友達のお母さんから聞きました。頼りがいのあるお姉ちゃん、よかったですね。

自然の脅威が与える子どもへの心理的影響、親としても心に留めておきたいと思えます。